

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	岩美町立岩美北小学校
授業者	乾道夫 大高悠紀 岸本紀代美 河上慎一朗

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

おそうじカヤック体験から見えるもの

#### 1-2. 学年

5年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

校舎3階の窓から見える浦富海岸は本校児童にとって大変身近である。しかし、身近過ぎて頻繁に訪れる児童は少なかった。1学期に浦富海岸に行き、現地の状況に触れた。ごみがたくさん漂着しているだろうと予想して訪れた海岸にごみは少なかった。きっときれいにしてくださる方が存在するだろうと児童は予想した。しかし、ごみが全くないのではなく、漂着ごみを見つけることもできた。岩美の宝である浦富海岸を、わたしたちが大人になっても持続させるためには海のごみをへらさなければならないと考えた。環境省自然保護官との出会いでは、漂着ごみは相手の国や地域が悪いのではなく、わたしたちが出したごみも他国や他地域に漂着しており、互いに考えるべき問題であることを教わった。

そこで、実際に人が歩いて行くことができない海岸にシーカヤックを使って赴き、海のごみの現状を知り、わたしたち自身もごみを片付ける活動に参加しようと考えた。海岸をきれいにしてくださる方の思いを、自分たちも体験して感じ取ること、また、岩美の海のごみ問題について課題を整理することをねらった単元とした。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

山陰の松島と称される岩美の宝、浦富海岸に漂着するごみを目の当たりにし、自分たちの手で掃除をする体験を通して、ふるさと岩美の海を将来にわたって大切にしようとする心情を育てるとともに、課題解決のための方法について考えることができるようにする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

わたしたちのふるさと、岩美町に誇りをもち、郷土を愛する心情を育てる。  
持続可能な社会を目指す主体者としての素地を育てる。

1-7. 単元の展開（全9時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ・ 2	これまでの学習をふり返り、活動の目的を捉える。 ・1学期の学習内容を振り返る。 ・昨年度の5年生が行った活動を知り、これからの活動を考える。	浦富海岸に赴いて捉えた現状、自然保護官との出会いで学んだこと、岩美を海から見た気づきなど、1学期の学習活動を振り返り、今後の活動の計画を立てる。 ○これまでの活動から得たことをまとめるとともに、自分たちが見ていない岩美の海の様子を想像し、友達に伝えることができる。【知識・理解】（ワークシート、発言）
3 ・ 4	海岸に漂着するごみについて調べる。 ・どのようなごみが漂着するのか予想する。 ・ごみが海にどのような影響を与えているのかを調べる。	一般的に海岸にどのようなごみがあるのかを考えさせる。 ○海岸に捨てられるごみ、漂着するごみについて、調べることができる。【知識・理解】（ワークシート、発言）
5 ・ 6 ・ 7 （本時）	おそうじカヤック体験を通して、普段人が入らない海岸の現状を知る。 ・牧谷の海岸からカヤックに乗り、人が普段入らない浜に漂着するごみの現状に気づく。 ・清掃活動を行い、ごみの種類や量について知る。	安全に留意し、シーカヤックでなければたどり着けない海岸で現状に気づかせ、清掃活動を体験させる。 ○渚交流館の指導員の話聞き、意欲的に清掃活動に取り組んだり、漂着しているごみの特徴に気づいたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】（行動・発言） （外部連携） 岩美町立渚交流館 保護者ボランティア （使用教材） ライフジャケット シーカヤック
8 ・ 9	おそうじカヤック体験で分かったことや感じたことを友達と伝え合い、まとめる。 ・人が容易に入ることのできる砂浜とは様子が違い、多くのごみが漂着していたことに気づいた。 ・素材がプラスチックのごみがたくさん見られた。	カヤックで赴いた海岸がグループごとに異なるため、気づきや感想を伝え合った上でワークシートにまとめさせる。 ○おそうじカヤック体験で気づいたことを友達に伝え、自分の学びをまとめている。【思考・表現・判断】（ワークシート）

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

おそうじカヤック体験を通して岩美の海の現状を知り、課題解決のための方法について考えることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 本時までの学習を振り返りながら、学習のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どれぐらいのごみがあるんだろう。</li> <li>• 安全に気をつけてシーカヤック体験をしよう。</li> <li>• 指導員さんから教わったことを実践したい。</li> </ul>	<p>1 本時までの学習を振り返り、これから訪れる海岸の現状を想像させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ライフジャケット等の安全装備を着用させる。きちんと着用できているか、教員、指導員が確認し、安全な活動となるよう留意する。</li> <li>• お世話になる渚交流館の職員・指導員、保護者ボランティアの方を紹介し、多くの方の協力を得て活動できることを押さえる。</li> </ul>
<p>おそうじカヤック体験から、岩美の海の課題を探ろう。</p>	
<p>2 安全に気をつけながら、カヤックを漕いで目的地に向かう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 宿泊体験のときに経験したから、乗り方は分かります。</li> <li>• オールを持つ手の動かし方が難しいな。</li> <li>• 自然にできた地形が入り組んでいてすごい。</li> </ul>	<p>2 カヤックで目的地を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4つのグループに分かれて目的地を目指す。各グループに教員と指導員がついて指導し、安全に目的地を目指す。</li> <li>• 教員は防水カメラを持ち、児童の様子や海岸の地形を撮影し、まとめの際に活用できるようにする。</li> </ul>
<p>3 目的地の現状を観察し、清掃活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 人が歩いて来れない浜だから、ごみがたくさん流れ着いている。</li> <li>• 外国の文字が書いてあるごみがあるよ。</li> <li>• 靴とかペットボトルみたいに、生活に使うものがごみになっている。</li> <li>• 小さなプラスチックが落ちていて、きれい。</li> </ul>	<p>3 現地の状況を把握させ、清掃活動に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カヤックでないとたどり着けない浜なので、簡単にボランティアの人が掃除に来ることができないことを理解させる。</li> <li>• 外国からのごみが漂着するということは、わたしたちの国から他国へ流れ着くごみも存在するこ</li> </ul>

<p>4 出発した砂浜までシーカヤックで戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海なのに洞窟のようになっていてすごい。</li> <li>・これが自然にできたんだね。</li> <li>・岩美の海岸は、いろんな地形が見られるからすごい。</li> </ul> <p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が自由に入れる砂浜はきれいなのに、カヤックで行った砂浜にはごみがたくさんあった。</li> <li>・自然の木だけでなく、人が作った物が漂着していた。</li> <li>・プラスチックでできたごみがたくさんあったよ。</li> </ul>	<p>とに気づかせる。</p> <p>※指導員のお話から、意欲的に清掃活動に取り組んだり、漂着しているごみの特徴に気づいたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】(行動・発言)</p> <p>4 安全に留意して、出発地点へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、安全に気をつけながらシーカヤックで出発地点へ戻る。</li> <li>・浦富海岸の起伏に富んだ地形を見たり、洞窟になっているところを通ったりして、自然の素晴らしさに触れさせる。</li> </ul> <p>5 本時のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に気づいたことを発言させ、岩美の海のごみ問題を深く考える契機とする。</li> <li>・プラスチックを減らす取り組みがどうして重要であるのかを考えさせる。</li> <li>・お世話になった職員、指導員さん、ボランティアの方へ、感謝の気持ちを伝えられるようにする。</li> </ul>
--	--

### 3. 今回の活動の自己評価

この学習を実施するまでに、歩いて行ける砂浜に出かけていたため、きれいな浜にするために活動している人の存在には気づいていたが、カヤックで訪れた海岸に存在したごみは、児童の想像以上の量と種類であった。漂着ごみや生活ごみが海岸に存在することは理解していても、想像以上のごみを目の当たりにすることで、きれいな岩美の海にも明らかにごみ問題が存在することに気づくことができた。また、シーカヤックを利用することで、遊覧船で見た起伏の大きい地形をもっと間近で見ることができた。岩美の海が素晴らしいと感じる理由の一つがこの地形であることも実感することができた。以上のことから、この活動は児童が「海の豊かさを守らないといけない」と感じることに於いて、有意義なものであったと感じる。

この学習は、渚交流館の職員さんやカヤックの指導員さん、本校児童の保護者など、多くの方に支えていただいた。人との出会い、関わりを通して学びを深めることができたように思う。子どもたちが大きくなり、自分の子や孫の世代が活躍する世の中になっても、この海が、浦富海岸がきれいな海として持続するために、自分たちにできることを考えていきたい。

#### 4. 今後の課題

この学習は7月に実施する計画であったが、天候不良や新型コロナウイルス感染対策のために10月初めに実施することになった。プラスチックのごみが海に多く存在することをこの体験で実感した上で、海と山のつながりについて考え、木のストロー作りなど、プラスチックごみを減らすための取り組みについて学ぼうと考えていたが、活動が前後することになった。初めに木のストローと出会ったことで、「あの取り組みは、こうした状況にあるから大切なのだ。」と気づくこともできたが、プラスチックごみをどうしたらよいのかをしっかりと考えさせることができるように、活動時期を再度検討したいと感じている。また、海での活動であるため、安全には十分に留意して取り組む必要があると考える。

#### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。